

『指』

瀬戸山美咲

夜明け前。

薄暗がりの中、斜めに倒れた電柱が見える。

がれきとなった家や家財道具を踏みながら、マスクをした男がやってくる。

長靴に分厚いコート姿。手には軍手。

立ち止まり、足元のがれきを動かす。

同じくマスクをして長靴を履き分厚いコートを着た女が大きなリュックを背負ってのそのそとやってくる。

女 ねえ、もう帰ろうよ。

男、女を無視して別のがれきに手を伸ばす。

女 もう日、昇るよ。

男 ……。

女 もうないよ。この辺は全部流されてる。

男 ……。

女 もうだめだよ。

男 ……。

女 無駄だった。

男 ……。

女 ってか、重いんだけどー。

男、女を無視し続けている。

女、むっとするが、思い出したように顔をほころばせる。

女 200万くらいあるかな。一面、お札って夢みたいだよね。

男 ……。

女 やっぱじじばばはタンス預金なんだねー。ありがたいね。ああ重い。

男 ……。

女 ねえ、ねえ、お寿司食べて帰ろう。

男 ……。

女 このへんじゃやってないかな。

男 ……。

女 ガソリン積んできてよかったね。全滅じゃん。

男 ……。

女 あー、お寿司のこと考えたらお腹すいてきた。

男、同じところを見てしばらく止まっているが、手を伸ばし何かをつかむ。  
ぐっと力を入れるが、動かない。

男 カッター。

女 え？  
男 カッター出せ。  
女 なんです。  
男 これ。  
女 え、それ何？ 車？

女、男に近づき、男の手元を覗きこむ。

女 うえつ、うえええええ。

女、嘔吐する。

女 死んでる……。  
男 ……。  
女 えーえーえー。  
男 出せよ。  
女 え、何？  
男 だから、カッター。  
女 え、何、何すんの。  
男 切る。  
女 え？  
男 指輪。  
女 え。

女、今一度男の手元を見る。

女 あ。  
男 ハンドルしっかり握ってて外れねえんだよ。  
女 ……。  
男 だから切る。  
女 え？ ハンドル？  
男 ちげえよ。指、切んだよ。

長い沈黙。

男 どうした？  
女 え、今、なんて言った？  
男 は？  
女 今、なんて言った？  
男 だから指輪取るからカッター。  
女 じゃなくて、え、何切るの？  
男 え？ だから指。

沈黙。

男 なんだよ。

女 え？ 何するの？

男 だから、指切るからカッター。

女 その女の人の。

男 ほかにどの指切んだよ。

女 指輪を取るために。

男 だから、そうだって言うてんだろ。

女 だめだよ！

男 は？

女 それはやっちゃだめだよ。

男 え？

女 それはやっちゃいけないことだと思う。

男 は？ いいから出せよ。

女 出さない。

男 は？

女 出さないよ。

男 何言ってるの、おまえ。

女 何言ってるって。わかるでしょ。

男 わかんねえよ。

女 だめだよ。

男 もう、いいよ。

男、女に近づくと、女のリュックからカッターを出そうとする。  
女、必死でそれをかわし、男から離れる。

男 なんだよ！

女 だめだよ！ 人の指切ったら。

男 え？ いや、人じゃないっしょ。死んでるし。

女 え？

男 え？

女 死んだら、人じゃないの？

男 え、違うの。死体でしょ。

女 いや、人でしょ。え？ いや、じゃあ、死体？ 死体？ もし死体だとしても、あれだよ。

男 なんていうの、あの、死体、死体損壊罪？

男 え？ 何？ 法律的にだめだって言うてるの？

女 うん。

男 俺たちがしてるの、何？

女 ……いや、でも違うよ。それとこれは。

男 何が違うの。同じでしょ。

女 いや、だから、いや、その。

男 もたもたしてっと明るくなるから。

女 痛いよ！

男 え？

女 切られたら痛い。だからだめ。

男 だから、死んでるし。

女 うん。

男 痛くねえし。

女 でもさ、なんか痛いじゃん。

男 なんか？

女 うううん。うううん。

男 ああ、もう。

女 じゃ、あれだ。宗教。宗教上の理由。

男 俺たちがいつ宗教入った。

女 ……入ってないけど、今からでも入ろう。

男 あー。

女 うん！ うん！

男 おまえさ、さつき、寿司食いたいって言ってただろ。

女 え。

男 俺はおまえに寿司食わせるためにやるんだよ。

女 え？

男 俺たちさ、なんでこんなことやってるの。

女 え……。

男 メシ食うためだろ。

女 ……。

男 なあ。

女 ……。

男 おまえだって、わかってるだろ。

女 ……うん、わかるよ。

男 いいか。世の中っていうのは盗みで成り立ってんだよ。

女 ……うん。

男 みんな誰かの金を盗んでんだろ。適当な仕事して、その仕事以上の金を受け取っている。誰がさ、報酬に見合うだけの労働してる？ 金持ってる奴はさ、みんな対価以上の金取ってんだよ。

女 うん。

男 それは、盗むのと同じだろ。

女 うん。

男 世の中つうのはな、労働の対価としての金だけじゃまともじゃなくていけねえようにできてんだよ。だから、みんな、はったりかまして、人騙くらかして、金を取る。借金だっけそうだと何億何兆借金してる奴らだっけ、返すつもりなんてねえぞ。あれは盗んでんだよ。

女 うん。

男 そうやってうまく盗んだヤツだけが生き残る。じゃあ、反対に盗まれるだけの奴はどうなる。

女 ……  
男 死ぬ。だろ？  
女 うん。そうだよね。そうだよね。  
男 わかったら、出せよ。  
女 ……  
男 なんだよ！  
女 私、お寿司食べなくていいよ。  
男 は？  
女 お寿司も食べなくていいし、もうぜいたくしなくていい。  
男 は？  
女 我慢できる。お金はいらない。だから、やめよう。  
男 何言ってるんだよ。  
女 できる。  
男 できねえよ。今さら元の生活に戻れねえだろ。  
女 戻る。  
男 どうやって暮らすんだよ。  
女 働く。  
男 ああ？  
女 バイトする。  
男 マジかよ。  
女 できる！  
男 できねえよ！ ばくばくばくばく食ってばっかのやつが何言ってるんだよ！  
女 できる！ もう食べない。もう何も食べない！  
男 何言ってるの。死にてえの。  
女 死にたくないよ。でも、でも、この指輪の分は食べなくてもいい。  
男 あ？  
女 だって、もし、それが100万だとするよ。  
男 ああ。  
女 そんなの2、3カ月で使っちゃうよ。  
男 それが何。  
女 うん、だから。そうだよ。この200万だって、暮らせて半年だよ。だったらいらんないよ。  
男 ばかじゃねえの。  
女 何。  
男 だからさ、その半年生きなきゃ、そのあとの半年も生きられねえだろ。  
女 そうだけど、だけど、だめなんだよ！  
男 うるせえな！

男、女に近づき、無理やりリュックからカッターを引っぱり出す。女、カッターを持つ男の手にしがみつく。女、力づくでカッターを取り返し、男から距離を取る。

女 渡さない。  
男 いい加減にしろよ！

男、女に近づこうとする。女、カッターを自分の手に向けて、

女 切るよ！ もし、その人の指切るっていうなら、私の指切るから！

男、それでも女に近づこうとする。女、カッターを自分の手に一層近づけて、

女 切るよ！

男 切れよ。

女 え？

男 切れよ。

女 え……。

男 できねえくせに、言うんじゃねえよ。

女 できるもん。

男 じゃあ、やれよ。

女、自分の指を切ろうとするが、できない。

男 あー、ばからしい。

男、もう一度、ハンドルの指に手を伸ばし、力を入れる。

男 あー。どんだけ、握りしめてんだよ。なんか切るもん落ちてねえかな。あ。

女 何。

男 これ、あれか。

女 何。

男 結婚指輪？

女 え……。

男 (笑って) 俺、買ってやってないよな。

女 ……。

男 これ取れたら、おまえにやるよ。

女 ……。

女、去ろうとする。

男 どこ行くんだよ。

女 ……。

男 車のキー、ここだぞ。

女 ……。

女、去る。

男、がれきをめくり刃物を探すが見つからない。

女、とぼとぼと戻ってきて、男の横に立つ。

男  
なんだよ。

女、黙って男にカッターを差し出す。

男、受け取る。

男  
最初からそうしろよ。

男、カッターの刃先を出し、指に当てる。その瞬間、

女  
ぼんちゃん。

男、手を止める。

男  
え？

女  
この人、ぼんちゃんじゃない？

男  
え？

女  
ほら、私の友達の、中学の。

男  
え……あ。

女  
こんな髪型だよ。服もこんな……。

男  
……ああ。いや、でも。

女  
うん、こんなところいるわけない。

男  
うん。

女  
でも……

男  
うん。

女  
似てる。

男  
……。

女  
似てる。

男  
うん……。

沈黙。

女  
なんでかな。

男  
……

女  
なんで泥棒はよくて、なんで指は切っちゃいけないって思うのかな。

男  
……。

女  
わかんない。だって、

男  
……。

女  
何がよくて、何がいけないって、全部決めもらってたから。

男  
……。

女  
でも、それは人に決めてもらうことじゃないんだね。



男 ……  
女 自分、で決めなきゃいけないんだね。  
男 ……  
女 で、——決めたら後悔しなきゃいけないんだ。

女、軍手を取り、自分の手に息を吹きかけ、手と手をこすり始める。

男 何してる。  
女 あっためる。

女、指に手を伸ばし、包み込む。

女 盗もう。

男 え。

女 私は生きる。

男 ……

女 盗む。盗んで生きる。

男 ……

女 私は決めた。

男 ……

女 ただ、

男 ……

女 指は切らない。指輪は……、そっと抜かなくちゃいけないんだよ。

男 ……

女 いやじゃなければ、手伝って。

男 ……

女、指を温め続ける。

男、おそろおそろ自分の手を伸ばす。

女、その手を引つ張り自分の手に重ねる。

男、女を見る。

目を閉じて、温め続ける女。

男もまた目を閉じる。

暗転。